



廿九年
黒田清雨伯垣所書

養浩堂藏書

早稲田大学図書館

文書27

B 52



蘇州府志卷之四
藝文一

蘇州府志

七月一日晴暑
初微暑者

於此時起與園庶掃除去
夏屋此多修也海志一見陵子
勝傳不為書求
其田法徑與及來面會

南長冠

出勤以存不臣
里而信
中
為

退下者
二十六
勝

七月四日高輪後麻
卸行幸

吾等一歩引くも其向會の熱度逆上り
脚を危くする刀束の経中次第
来り満座を好むもの、真山林院の本堂
盤石何坪をたふす女木十枚改修
是より多御、魚沼東中川尻の物
古所本任

二日 蕪突 土

朝時起上掃除 徳跡日本指す少買物 丑四九の海

八天下一瓶 角瓶三斤 鶴六羽
海内一瓶 金五粒 千葉子

出動 三の山下

上段 芥川中央 吉井運物唐子麻袋 雪舟、掛坊 紫標、凡ら好
馬内海軍の歌、南軒眉上、二の宮、本村和、屋風、七、
前、路、二、張、と、安、く、涼、ま、く、薄、道、敷、を、橋、を、ま、り、二

煙を西へ揚へ上端より 燈籠三つ 五枚

六月

二十九日

出勤

三十日晴

多々母之福忌日局長が病に立不集

大八朝も他日三島若井里留る人何候也一里留る南房

勝下房々々々子先祝事々々里留る若々々

青山暮系性及不用車流汗如雨未故言不トリ一ト三ト

親長政者一不集 待月止切々七部都出々々 仁世

のりら大波々々

勝々々お々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

七月下

出勤 於若越

宮内省

任正長
腰
持

この傳大書多うなるに此書印の時勢は何れも
あつた白紙と送先せらるゝ。平生の事も心算も
松原と空也といふ世多うなる官途の事せら
るゝ。此の書は、
地と風あり或人先かて月らうは
談判殿分の時一思の徳
任師を承る二書書の
甲

二十九年

二

同三書三
おん

出部 任師を承る

出部

出部

出部 任師を承る
〇 任師を承る

十日 晴

往師也 寺の修理の行へり 相長

行

十一

往師也 寺の修理の行へり

道に金利の向ふ木 相長 修りあり

寺の 往師也 寺の修理の行へり

大寺 寺の 往師也 寺の修理の行へり

十一

寺の 往師也 寺の修理の行へり

寺の 往師也 寺の修理の行へり

七月

八月 日 曇り 陰天

去日 寺の 往師也 寺の修理の行へり

清水流 寺の 往師也 寺の修理の行へり

杉方前 寺の 往師也 寺の修理の行へり

寺の 往師也 寺の修理の行へり

寺の 往師也 寺の修理の行へり

二十九年

七月十日

八月十日

九月十日

十月十日

十一月十日

十二月十日

沈田名保

二十九年十一月十日

大八再游清國及折原

千島燈籠裏

議院開會方伊知首相性我

初秋柳島台申遊馬山帰